

## 第三週

---

### 靈操：193

第三の準備 望んでいるもの願う事。ここでは、主が私の罪のために受難に赴かれるので、痛み、深く感じる心と乱れ悩む心を願う。

### 靈操：203

第三の準備 望んでいるものを願う事。ご受難において当然願わなければならないもので、苦しむキリストと共に苦しみ、砕かれたキリストと共に砕かれ、涙し、私のためにキリストが忍ばれた夥しい苦痛のために、内的な苦痛を願う。

---

## ピラトの裁判

マタイ 27,1-26

<sup>1</sup> 夜が明けると、祭司長たちと民の長老たち一同は、イエスを殺そうと相談した。<sup>2</sup> そして、イエスを縛って引いて行き、総督ピラトに渡した。<sup>3</sup> そのころ、イエスを裏切ったユダは、イエスに有罪の判決が下ったのを知って後悔し、銀貨三十枚を祭司長たちや長老たちに返そうとして、<sup>4</sup> 「わたしは罪のない人の血を売り渡し、罪を犯しました」と言った。しかし彼らは、「我々の知ったことではない。お前の問題だ」と言った。<sup>5</sup> そこで、ユダは銀貨を神殿に投げ込んで立ち去り、首をつって死んだ。<sup>6</sup> 祭司長たちは銀貨を拾い上げて、「これは血の代金だから、神殿の収入にするわけにはいかない」と言い、<sup>7</sup> 相談のうえ、その金で「陶器職人の畑」を買い、外国人の墓地にすることにした。<sup>8</sup> このため、この畑は今日まで「血の畑」と言われている。<sup>9</sup> こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。「彼らは銀貨三十枚を取った。それは、値踏みされた者、すなわち、イスラエルの子らが値踏みした者の価である。<sup>10</sup> 主がわたしにお命じになったように、彼らはこの金で陶器職人の畑を買い取った。」<sup>11</sup> さて、イエスは総督の前に立たれた。総督がイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」と言われた。<sup>12</sup> 祭司長たちや長老たちから訴えられている間、これには何もお答えにならなかった。<sup>13</sup> するとピラトは、「あのようにお前に不利な証言をしているのに、聞こえないのか」と言った。<sup>14</sup> それでも、どんな訴えにもお答えにならなかったので、総督は非常に不思議に思った。<sup>15</sup> ところで、祭りの度ごとに、総督は民衆の希望する囚人を一人釈放する

## 第三週

---

ことにしていた。<sup>16</sup> そのころ、バラバ・イエスという評判の囚人がいた。<sup>17</sup> ピラトは、人々が集まって来たときに言った。「どちらを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか。それともメシアといわれるイエスか。」<sup>18</sup> 人々がイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。<sup>19</sup> 一方、ピラトが裁判の席に着いているときに、妻から伝言があった。「あの正しい人に関係しないでください。その人のことで、わたしは昨夜、夢で随分苦しめられました。」<sup>20</sup> しかし、祭司長たちや長老たちは、バラバを釈放して、イエスを死刑に処してもらうようにと群衆を説得した。<sup>21</sup> そこで、総督が、「二人のうち、どちらを釈放してほしいのか」と言うと、人々は、「バラバを」と言った。<sup>22</sup> ピラトが、「では、メシアといわれているイエスの方は、どうしたらよいか」と言うと、皆は、「十字架につけろ」と言った。<sup>23</sup> ピラトは、「いったいどんな悪事を働いたというのか」と言ったが、群衆はますます激しく、「十字架につけろ」と叫び続けた。<sup>24</sup> ピラトは、それ以上言っても無駄なばかりか、かえって騒動が起こりそうなを見て、水を持って来させ、群衆の前で手を洗って言った。「この人の血について、わたしには責任がない。お前たちの問題だ。」<sup>25</sup> 民はこぞって答えた。「その血の責任は、我々と子孫にある。」<sup>26</sup> そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。

---

### マルコ 15,1-20

<sup>1</sup> 夜が明けるとすぐ、祭司長たちは、長老や律法学者たちと共に、つまり最高法院全体で相談した後、イエスを縛って引いて行き、ピラトに渡した。<sup>2</sup> ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」と答えられた。<sup>3</sup> そこで祭司長たちが、いろいろとイエスを訴えた。<sup>4</sup> ピラトが再び尋問した。「何も答えないのか。彼らがあのようにお前を訴えているのに。」<sup>5</sup> しかし、イエスがもはや何もお答えにならなかったのので、ピラトは不思議に思った。<sup>6</sup> ところで、祭りの度ごとに、ピラトは人々が願い出る囚人を一人釈放していた。<sup>7</sup> さて、暴動のとき人殺しをして投獄されていた暴徒たちの中に、バラバという男がいた。<sup>8</sup> 群衆が押しかけて来て、いつものようにしてほしいと要求し始めた。<sup>9</sup> そこで、ピラトは、「あのユダヤ人の王を釈放してほしいのか」と言った。<sup>10</sup> 祭司長たちがイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。<sup>11</sup> 祭司長たちは、バラバの方を釈放してもらうように群衆を扇動した。<sup>12</sup> そこで、ピラトは改めて、「それでは、ユダヤ人の王とお前たちが言っているあの者は、どうしてほしいのか」と言った。<sup>13</sup> 群衆はまた叫んだ。「十字架につけろ。」<sup>14</sup> ピラトは言った。「いったいどんな悪事を働いたというのか。」群衆はますます激しく、「十字架につけろ」と叫び立てた。<sup>15</sup> ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバを釈放した。そして、イエスを打ってから、十字架につけるために引き渡した。<sup>16</sup> 兵士たちは、官邸、すなわ

## 第三週

---

ち総督官邸の中に、イエスを引いて行き、部隊の全員を呼び集めた。<sup>17</sup>そして、イエスに紫の服を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、<sup>18</sup>「ユダヤ人の王、万歳」と言って敬礼し始めた。<sup>19</sup>また何度も、葦の棒で頭をたたき、唾を吐きかけ、ひざまずいて拝んだりした。<sup>20</sup>このようにイエスを侮辱したあげく、紫の服を脱がせて元の服を着せた。そして、十字架につけるために外へ引き出した。

---

### ルカ 23:1-5

<sup>1</sup>そこで、全会衆が立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。<sup>2</sup>そして、イエスをこう訴え始めた。「この男はわが民族を惑わし、皇帝に税を納めるのを禁じ、また、自分が王たるメシアだと言っていることが分かりました。」<sup>3</sup>そこで、ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」とお答えになった。<sup>4</sup>ピラトは祭司長たちと群衆に、「わたしはこの男に何の罪も見いだせない」と言った。<sup>5</sup>しかし彼らは、「この男は、ガリラヤから始めてこの都に至るまで、ユダヤ全土で教えながら、民衆を扇動しているのです」と言い張った。

## 第三週

---

ヨハネ 18:28-40

<sup>28</sup> 人々は、イエスをカイアファのところから総督官邸に連れて行った。明け方であった。しかし、彼らは自分では官邸に入らなかった。汚れないで過越の食事をするためである。<sup>29</sup> そこで、ピラトが彼らのところへ出て来て、「どういう罪でこの男を訴えるのか」と言った。<sup>30</sup> 彼らは答えて、「この男が悪いことをしていなかったら、あなたに引き渡しはしなかったでしょう」と言った。<sup>31</sup> ピラトが、「あなたたちが引き取って、自分たちの律法に従って裁け」と言うと、ユダヤ人たちは、「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」と言った。<sup>32</sup> それは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、イエスの言われた言葉が実現するためであった。<sup>33</sup> そこで、ピラトはもう一度官邸に入り、イエスを呼び出して、「お前がユダヤ人の王なのか」と言った。<sup>34</sup> イエスはお答えになった。「あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。」<sup>35</sup> ピラトは言い返した。「わたしはユダヤ人なのか。お前の同胞や祭司長たちが、お前をわたしに引き渡したのだ。いったい何をしたのか。」<sup>36</sup> イエスはお答えになった。「わたしの国は、この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない。」<sup>37</sup> そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」<sup>38</sup> ピラトは言った。「真理とは何か。」ピラトは、こう言ってからもう一度、ユダヤ人たちの前へ出て来て言った。「わたしはあの男に何の罪も見いだせない。<sup>39</sup> ところで、過越祭にはだれか一人をあなたたちに釈放するのが慣例になっている。あのユダヤ人の王を釈放してほしいか。」<sup>40</sup> すると、彼らは、「その男ではない。バラバを」と大声で言い返した。バラバは強盗であった。

## 第三週

---

### 靈操

293 カヤファの家からピラトの家迄の秘義

マタイ 27・1-2、11-26、ルカ 23・1-5、13-25、マルコ 15・1-15 (ヨハネ 18・28-40) 参照

#### 要点第一

ユダヤ人の群集は皆主をピラトの元に連れて行き、「『私達は、この人が我々の国民を惑わし、皇帝に貢を納める事を禁じている事を確かめた』」と言い、ピラトの前で主を訴える。

#### 要点第二

ピラトは一度ならずキリストを調べた後、「『私はこの人に何の罪も認めない』」と言った。

#### 要点第三

主よりも強盗バラバが選ばれた。「ユダヤ人達は、『あの男ではない。バラバだ①』と、又大声で叫んだ」。

①原文は、「この人ではなく、バラバを釈放せよ」とみな大声で叫んだ。

294 ピラトの家からヘロデの家迄の秘義

ルカ・23・6-11 参照

#### 要点第一

ピラトは、ガリラヤの領主であったヘロデのもとへガリラヤ人のイエスを送った。

#### 要点第二

好奇心に駆られてヘロデは、長々とイエスに尋ねた。律法学者と祭司達が絶え間なく訴えたが、イエスは一言も答えられなかった。

#### 要点第三

ヘロデはイエスに白い衣服を着せ、兵士たちと共に主をさんざん嘲（あざけ）った。